

とちぎ
2011

県政のあゆみ

編集・発行
栃木県広報協会
2012年3月1日発行

業未来基地 とちぎ中央
(みぶ羽生田産業団地)

2012年
分譲開始

栃木県広報
2011-2012
とちぎ
元気
プラン

「安心」「成長」「発展」
を軸に描く
未来 日本一 栃木県

栃木県



栃木県マスコットキャラクター
栃木県元気ニコニコ係リーダー「とちまるくん」

1月 地域の子どもを育もう 全国フォーラムとちぎ



1月26日、県総合教育センターを会場に「地域の子どもをみんなで育む全国フォーラムinとちぎ」が開催されました。このフォーラムは、学校・家庭・地域が連携して家庭教育を支援し、地域ぐるみで子どもたちを育てる機運を高めることを目的としたものです。家庭教育支援者や教育関係者など約400人が参加し、「子どもを健やかに育む学校とPTAとの連携」「家庭教育を支える企業の取組」などをテーマに、活発な意見交換が行われました。また、「脳を鍛える大人の計算ドリル」の著者として知られる、東北大学の川島隆太教授による「脳科学の視点から見る子どもたちの生活リズム」と題した講演も行われました。

1月 真の分権型社会の実現へ 地方分権・地方自治フォーラム



「とちぎの自治のミ・ラ・イを考えよう」自治と住民との関係を中心に」をテーマに地方分権・地方自治フォーラムが1月22日、國學院大學栃木学園教育センターで開かれました。県民・自治体関係者ら約330人が参加し、東京大学の金井利之教授の基調講演「地方自治の仕組みと実践」に続いて、パネルディスカッションが行われ、活発に意見が交わされました。

1月 分断された市街地が一体化 「間々田アンダー」が開通

1月29日、都市計画道路3・4・105号間々田北通り（県道明野間々田線）「間々田アンダー」延長570mが開通しました。本事業は、JR宇都宮線をアンダーパスする道路を整備したものであり、今までは、踏切がある狭隘な道路であったことから、住宅団地の整備による交通量増加に伴い、朝夕には慢性的な渋滞が発生していました。今回の開通により、鉄道で分断された東西市街地の一体化や渋滞の緩和、安全性の向上が図られ、都市の発展に寄与することが期待されます。



2月 県民の大切な財産を守る 振り込め詐欺被害抑止コールセンター



栃木県警察は、発生が後を絶たない振り込め詐欺の被害を防ぐために、2月1日、「振り込め詐欺被害抑止コールセンター」を開設しました。6人のオペレーターが県民ひとりひとりの自宅に電話をかけ、最新の手口を具体的に紹介して被害防止の注意を呼びかけています。チラシなどでの広報と併せて、直接語りかけることによる効果が期待されています。2011年中の被害は66件で、前年に比べて約3割減少しています。

2月 新生栃木市で花の祭典 とちぎ花フェスタ2011

4市町が合併して誕生した新生栃木市の市総合体育館を会場に2月4日から6日まで、「とちぎ花フェスタ2011 in 栃木市」が開催されました。花フェスタは、花と緑にあふれるふるさととちぎづくりを目指して開催している花の祭典で、今回で13回目となりました。会場は県内の生産者が育てた約200種、2万5000本の花々で彩られ、フラワーアレンジや寄せ植えなどの体験教室、花のオークションなどの人気イベントも開催されるなど、過去最高となる4万人の来場者にとちぎの花の魅力を体験していただきました。



3月 とちぎの「人づくり」 教育振興ビジョンを策定



栃木県教育委員会は、とちぎの子どもたちが未来に夢や希望を描き、それを実現できる力を培えるよう、本県教育行政が目指す基本方向を明らかにした「とちぎ教育振興ビジョン(二期計画)」を策定しました。「とちぎの子どもたちを 自らの力で 自らの未来を 力強く切り拓いていける人間に育てます」を基本理念とし、本県の教育目標を「とちぎの教育が目指す子ども像」として示しました。県民のみならずのご理解とご協力をいただきながら、本ビジョンの確実な推進を図り、「とちぎ」ならではの教育を実現していきます。

3月 地球と人にやさしいエコとちぎ

栃木県環境基本計画を策定

栃木県は、2011年度からの5年間を計画期間とする「栃木県環境基本計画」を3月に策定しました。この計画は、環境保全に関する県の施策の基本となるもので「エコとちぎ」を担う人を育てる」「かけがえない地球を守る」「環境にやさしい循環型の社会を築く」と、「人と自然の共生を目指す」の4つの基本目標を掲げました。「地球と人にやさしい『エコとちぎ』の実現に向け、県民のみなさんと力を合わせ、さまざまな施策に取り組んでいきます。



3月 安塚駅への利便性が向上

安塚駅西線が全線開通



3月3日、都市計画道路3・4・905号安塚駅西線（県道安塚停車場線）延長694メートルが全線開通しました。この事業は、東武宇都宮線安塚駅から県道宇都宮栃木線安塚バイパスまでを結び駅前通りとして整備したもので、今までは歩道が無く、電柱が乱立した狭隘な道路だったことから、朝夕には、駅利用者による交通渋滞が発生し、通学する児童や歩行者、自転車の安全が脅かされてきました。今回の開通により、安全で円滑な交通が確保され、公共交通へのアクセスや、生活の利便性の向上が図られました。

3月 県民生活に深刻な影響

東日本大震災の被災地復旧

3月11日に発生した東日本大震災により、国道408号宇都宮市板戸地内では大規模な斜面崩壊が発生するなど、多数の通行止めが発生しました。さらに、さくら市倉ヶ崎などにおいては、土砂災害が発生し、周辺住民への避難勧告が発令されるなど、県民生活に深刻な影響を及ぼしました。



栃木県は、県民の安全安心を確保するため、各市町や関係者の協力のもと、全力で復旧工事に努めました。（写真は国道408号）

3月 北関東3県と港・空港をつなぐ
北関東自動車道全線開通



3月19日、北関東自動車道の太田桐生ICから佐野田沼ICまでの延長約18・6キロメートルが開通し、群馬県高崎市から茨城県ひたちなか市に至る全線約150キロメートルがつながりました。この全線開通により、栃木・茨城・群馬の主要都市や港、空港が結ばれ、新たな文化の交流や広域的な観光ルートへの創出、さらには災害時の緊急輸送路の確保など、本県の限りない発展に大きく寄与することが期待されます。

3月 インターパーク交番が開所
地域の治安向上をめざして



栃木県警察は、宇都宮市インターパーク5丁目に宇都宮南警察署「インターパーク交番」を新設し、3月22日、業務を開始しました。インターパーク地区は、ここ数年で急激に都市化が進み、事件・事故などが増加し、地元の人たちから交番設置の要望を受けていました。インターパーク交番では、交番所長ほか7人の警察官が交替制で勤務し、日夜、安全安心なまちづくりを力を入れています。

3月 土沢インターチェンジが開通
日光宇都宮道路

3月25日、日光宇都宮道路の大沢IC（インターチェンジ）と今市ICの間に土沢ICが開通しました。これにより、日光宇都宮道路がより身近で利用しやすい道路になりました。日光宇都宮道路は、県都宇都宮市と国際観光都市日光とを連絡し、観光地へのアクセス向上や産業の振興とともに、沿線地域の活性化、生活の利便性向上を図る道路です。沿線には、春のヤマザクラ、秋のモミジなどの美しい樹木が数多くあり、自然を楽しめる道路でもあります。



4月 目指せ!「元気度日本一」 「新とちぎ元気プラン」が始動

栃木県は、今後5年間の県政の基本指針となる栃木県重点戦略「新とちぎ元気プラン」をスタートさせた。「地域をとともに創る」という考えのもと、「人づくり」を政策の基本に据えながら、「暮らしを支える安心戦略」「明日を拓く成長戦略」「未来につなぐ環境戦略」の3つの重点戦略の推進によって、「安心」「成長」「環境」をともにつくる、「元気度 日本一 栃木県」の実現を目指しています。

(写真は「新とちぎ元気プラン」の表紙)



4月 県民生活から暴力団を排除 栃木県暴力団排除条例が施行



暴力団排除を目的とした栃木県内初の「栃木県暴力団排除条例」が、4月1日に施行となりました。条例の主な内容は、学校などの近くにおいて、暴力団事務所を新たに開設・運営することを禁止することとしたほか、事業者が暴力団員などに対し、暴力団の威力を利用する目的で金品などの供与を禁止するなど、県民生活や事業活動から暴力団を排除するための項目が盛り込まれています。

4月 首都圏で「とちぎ」をPR とちぎのいいもの販売推進

4月1日、本県の知名度アップとさらなる産業の振興を図るため、東京事務所内に「栃木県企業誘致・県産品販売推進本部（とちぎのいいもの販売推進本部）」を設置しました。推進本部は、首都圏におけるマーケティングの最前線基地として位置付け、企業に対して個別訪問による営業活動を行うなどして、県内各地にある魅力的な県産品や産業用地などの「とちぎのいいもの」を積極的にPRし、売り込んでいきます。さらに、観光振興においても首都圏の旅行エージェンツへのPRなど、県内観光の情報発信を積極的に行い、誘客促進を図っています。



写真提供「とちぎテレビ」



4月 風評被害を吹き飛ばせ! 栃木の観光と農産物フェア

栃木県は、東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による風評被害を払拭し、さらなる観光客の増加や農産物などの消費拡大を図るため4月22日と23日に、東京・池袋サンシャインシティで「がんばろう日本! 栃木の観光と農産物フェア」を開催しました。とちぎ未来大使のみなさんや、県内観光・農業関係者が集い、福田知事のかけ声のもと、始まったイベントは、2日間で

1万2000人を集めるとともにマスコミにも報道されることで「とちぎの安全・安心」について広くPRすることができました。このイベントを皮切りにイベントやキャンペーンを数多く実施し、風評被害の払拭に努めました。

今年も高齢者の熱い戦い! ねんりんピックとちぎ



4月24日から6月12日まで「ねんりんピックとちぎ2011」が開催され、テニス、ゲートボール、囲碁など12種目のスポーツ・文化交流大会で、高齢者の熱い戦いが繰り広げられました。シルバー作品展では、高齢者が創作した絵画や工芸、写真などの力作が来場者の目を引いていました。この大会の成績を参考に、全国健康福祉祭（熊本県）派遣選手が選ばれ、本県代表として大活躍しました。

4月 大震災からの復興を推進 栃木県震災復興推進本部を設置



東日本大震災による被害の復旧から復興へ歩みを進め、1日も早くとちぎに元気を取り戻すため、4月27日、「栃木県震災復興推進本部」を立ち上げました。「がんばろう日本! 元気をとちぎから」を合言葉に、被災者の生活支援など「県民生活の安定」、農産物や観光地等の風評被害対策など「経済・産業活力の回復」、再生可能エネルギーの利活用促進など「災害に強い地域づくり」に取り組んでいます。

栃木県震災復興推進本部のロゴマーク



5月 入館100万人を達成 とちぎ花センターで記念式典

1992年に栃木県が岩舟町に開設したとちぎ花センターの鑑賞大温室の入館者が5月14日で100万人に達し、同館前で記念式典が行われました。100万人目となった埼玉県桶川市の福島功さんとその御家族にバラの花束やコチョウラン、岩舟産のぶどう「巨峰」などが贈られました。鑑賞大温室は1棟建てでは国内最大級の温室で、珍しい

熱帯の花や砂漠の植物などが楽しめるほか、洋らん展など年7回の企画展も開催しています。花と緑にまつまれた安らぎの空間を提供できる施設として今後とも多くの皆さまに愛されるよう努めます。

5月 「那須平成の森」が開園 豊かな自然を満喫

那須御用邸用地の一部が宮内庁から環境省へ移管され整備されてきた「那須平成の森」が5月に開園しました。ここでは、豊かで多様な自然の中を散策できるほか、ガイドウォークや自然体験ミニプログラムなどに参加することができます。県も自然とのふれあい促進のため、駒止の滝観瀑台の整備や自然体験ミニプログラムの実施などに協力しています。また、11月には湯本温泉街近くに那須高原ビジターセンターが開館し、日光国立公園那須甲子地域の自然や歴史などの情報を提供しています。



6月



6月 コンサートなど楽しい催し 県民の日記念イベント

「県民の日」を記念したイベントが6月15日、県庁舎を会場に行われました。県民の日は、宇都宮県と栃木県の2つの県が合併して、ほぼ今の形の栃木県となった明治6年6月15日を記念して制定されたものです。当日は、オープニングセレモニーでのコンサートに、県や各市町のゆるキャラが大集合するなど、楽しい催しが開催され、幼稚園児をはじめ、多くの来場者でにぎわいました。

7月

7月 広げよう ふれあいの輪 ふれあい活動高校生をつどい

7月27日に県教育会館などで「ふれあい活動高校生をつどい」が開催されました。つどいは、次世代を担う高校生の豊かな人間関係づくりなどを目指したもので、当日は6校の生徒による体験発表や3つの分科会でのシンポジウムなどが行われまし



た。特に今年度は、大震災を通して今自分たちには何ができるかなど、一人一人が深く自己と向き合いながら、人と人との絆の大切さについて意見交換が行われました。また、この事業の一環で、知事が参加しての意見交換会も実施され、高校生が日ごろ感じていることなどについて活発な意見交換も行われました。

7月

7月 ドクターヘリ広域連携開始 北関東3県で新たな取組



7月1日、北関東3県でドクターヘリの広域連携が始まりました。ドクターヘリは、基地病院に常駐し、消防機関からの要請で医師や看護師を乗せて救急現場に出動し、救命医療を行います。広域連携により、県境地域を中心に出勤要請が重複した場合や傷病者が多数発生した事故などに他県のドクターヘリと連携して対応できることとなりました。12月末までに24件の広域連携が行われ、救急患者の救命や後遺症の軽減に威力を発揮しています。

7月 ありがとう！開園10周年 なががわ水遊園で記念式典

「那珂川から世界の川、そしてあこがれの海へ」をテーマに2001年7月15日、大田原市（旧湯津上村）にオープンした栃木県なががわ水遊園が開園10周年を迎え、7月14日に記念式典を行いました。この日は、地元、湯津上中学校ブラスバンドの演奏に続き、福田知事のあいさつ、参加者の祝辞、くす玉割りなどが行われ、来園者の皆さんにも祝って頂きました。今後も、県民の皆さまに愛される施設を目指します。



7月 安全・安心な交通を確保 黒部西川線の付替えが完了



一般県道黒部西川線、延長1.4キロメートルが完成し、7月2日に供用を開始しました。現道は幅員が狭くカーブが連続し、また、大雨時には通行規制を余儀なくされていましたが、湯西川ダム建設に伴う付替道路として1998年度から整備を進めてきたものです。全線供用により、安全・安心な走行環境が確保され、地域住民や観光客の利便性が向上し、観光立県とちぎの推進や地域の活性化にも大きく貢献するものと期待されます。

9月 新しいタイプの工業高校を整備 宇都宮工業高校

本県産業の将来を担う先端技術に対応できる人材の育成を目的に、教育内容、施設・設備ともに大きく



バージョンアップし「新しいタイプの工業高校Ⅱ科学技術高校」として宇都宮工業高校をJR雀宮駅東地区に移転・整備し、

9月から供用を開始しました。9月15日には開校記念式典が行われ、同校OBの渡辺貞夫氏も出席し、氏の作曲による新校歌「無限大」が生徒の斉唱により披露され、式典に花を添えました。

9月 保健衛生事業功績者を表彰 第51回栃木県公衆衛生大会



栃木県と県公衆衛生協会は、9月9日に県総合文化センターで「第51回栃木県公衆衛生大会」を開催し約300人が参加する中、大会長の福田知事と協会長の県医師会太田会長が保健衛生事業功績者に対して表彰状を授与しました。また、東日本大震災で、福島県で避難所巡回等の活動を行った、県精神保健福祉センター増茂所長が「災害時の心のケアについて」をテーマに記念講演を行い、公衆衛生関係者の資質の向上を図り、県民の公衆衛生への関心を高めました。

9月 学生交通安全リーダーを委嘱 交通安全ニューリーダー事業

栃木県警察は9月、若年層の交通安全意識の向上と交通ボランティア活動全体の活性化を図るため、県内の大学生を「とちぎ学生交通安全リーダー (TACKLE=Tochigi Academic Kotsu-anzen Leader)」に委嘱して「交通安全ニューリーダー事業」を立ち上げました。宇都宮大学アメリカンフットボール部を始めとする県内各地の学生が、既存の交通ボランティア団体とともに街頭広報活動などに活躍し、本県の交通死亡事故抑止に大きく貢献しています。



9月 県産牛肉などの安全をPR 牛肉・米安全安心キャンペーン



放射性物質検査により安全性が確認され、出荷・販売が可能となった県産の牛肉と米を中心に、安全性を広くアピールして県産農産物の消費回復と拡大を図るため、9月16日、県庁において県議会や各市町、関係団体等とのオール栃木体制で「とちぎの牛肉・米安全安心キャンペーン」を開催しました。会場には、試食用に500人分のとちぎ和牛の焼肉と新米なすひかりのおにぎりも用意され、たくさんの来場者で賑わいました。また、このキャンペーンを皮切りに同様のイベントが道の駅などを会場に県内各地で実施されました。

9月 県民総スポーツを推進 農民スポーツ・レクリエーションフェスティバル



9月17日、県総合運動公園で「平成23年度栃木県民スポーツ・レクリエーションフェスティバル総合開会式」が開催されました。記念イベントにおいては、健康エクササイズ教室が開催され、仲宗根りえ氏の指導により参加者は楽しく心地よい汗を流しました。陸上競技場では、同事業の一環であるレクリエーションフェスティバルが同時開催され、参加者はスポーツ種目を楽しみました。また、10月16日と23日には県民スポーツ大会が県内各会場で開催されました。

(写真は健康エクササイズ教室)

9月 早急な対策工事に取り組み
台風15号による被災地

9月21日から22日かけて本県を直撃した台風15号により、県内各地で河川護岸の崩壊や道路のり面の崩落



県道鹿沼足尾線

などの被害が発生しました。特に鹿沼市上粕尾地内では、道路が流失し生活道路が分断されたほか、さくら市のお丸山公園では、大規模な土砂の崩落が起こるなど、甚大な被害が発生しました。県は、一日も早く安全安心な県民生活が回復できるように早急な対策工事に取り組みました。

9月 障害者の自立と社会参加を促進
栃木県障害者スポーツ大会



9月25日に県総合運動公園などで第7回栃木県障害者スポーツ大会が開催されました。この県内最大の障害者のスポーツ大会に2000人を超える選手が県内各地から参加し、陸上、卓球、水泳、アーチェリーなど9競技で力一杯頑張りを、勇気と感動を与えてくれました。また、会場内のふれあい広場では、訪れた人々が、ニュースポーツなどの体験を通して、障害のある人と楽しく交流を深めました。

10月 人権尊重の大切さを実感 ヒューマンフェスタとちぎ



「ひろげよう 明日への夢と笑顔の輪」をテーマに10月1日と2日、「ヒューマンフェスタとちぎ2011」がマロニエプラザ（宇都宮市）で開催されました。この催しは、県民一人ひとりに人権問題についてより身近なものとして考えてもらうために行っているものです。今回は、アニメ「サザエさん」の声優でおなじみの加藤みどりさんのトークショーや、

SPEDDの今井絵理子さんのトーク&ライブなどが行われ、約1万4000人ももの来場者で賑わいました。また、各種人権啓発ブースやさまざまな参加体験のブースでは、多くの参加者が人権尊重の大切さを実感していました。

10月 愛称命名し予約受付開始 みぶ羽生田産業団地

産業未来基地 とちぎ中央

(みぶ羽生田産業団地)
はにゅうだ

2012年 分譲開始



栃木県知事
福田 富一

栃木県企業局が壬生町に造成中の「みぶ羽生田産業団地」について、10月5日、広く県外企業からも認知されやすいよう、愛称を「産業未来基地とちぎ中央」と命名しました。この愛称には、団地に立地する企業にとって将来の事業展開の拠点となり、立地企業と栃木県、壬生町が共に「未来」に向けて発展していく基盤となるという願いが込められています。併せて2012年度の分譲開始に向けて第1期分譲区画の価格を公表し、予約分譲の受付を開始しました。

10月 工作やソーラーカー試乗も エコ・もりフェア2011



「とちぎ」から日本を元気に！エコ・もりフェア2011」が、10月8日と9日、わくわくグランディ科学ランドを会場に開催されました。このフェアは毎年開催している参加・体験型のイベントで、企業・関係団体の協力のもと、節電に関する展示、クワフト工作、ソーラーカー！電気自動車の試乗、ツリークライミングなどが行われました。来場者にはマイバッグ・マイはしの持参を呼びかけるなど、環境に配慮した取組も行われ、秋空のもと家族連れなど約1万7000人で賑わいました。

10月 元気をとちぎの「食」から
「食と農」ふれあいフェア

10月15、16日、「がんばろう日本！元気を栃木の『食』から」をテーマに、「とちぎ「食と農」ふれあいフェア2011」が、県庁と周辺の施設を会場として盛大に開催されました。とちぎの元気回復に向け、県内ご当地自慢の食の提供の他、牛肉などの安全・安心キャンペーン、「ザ・たちち」など4組の「とちぎ未来大使」による「元気ステージ」など、10万人の来場者が秋の味覚やさまざまな催しを楽しみました。



10月 「食」をテーマに講演
とちぎ食育推進大会



栃木県と栃木県教育委員会、とちぎ食育推進連絡会の主催による「とちぎ食育推進大会2011」を食育推進月間の10月24日、県総合文化センターで開催しました。食育に関する各種コンクールの表彰、活動事例発表のあと、(株)トータルフード代表取締役の小倉朋子さんが「食べ方は生き方の鏡」著から見直す日本の心」と題して、毎日使う箸をモチーフに使い方の実践を交えながら食から生き方のマナーについて講演しました。大会には関係機関・団体などから400人が参加し、県民一体での食育推進活動の展開について認識を共有、身近な実践の大切さを確認しました。

10月 インディアナ州・南加栃木県人会訪問
知事の米国訪問

10月27日から11月2日までの7日間、福田知事や神谷県議会議長一行が米国を訪問しました。最初にインディアナ州を訪問し、記念植樹などのイベントに参加するとともに、パデュー大学では、大学間交流の促進により科学技術分野などで本県とインディアナ州の発展を目指すため、本県と同大学との同意書を締結しました。次にロサンゼルス市を訪れ「南加栃木県人会創立20周年記念式典」に参加しました。今回の訪米では「とちまる募金」への義援金に対する御礼や、福島第一原子力発電所事故による風評被害払拭のための本県観光PRなども併せて行いました。





11月 全国から選手団1万1000人 スポレク「エコとちぎ」2011

「とびっきり栃木でいい汗いい出会い」のスローガンのもと、第24回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレク」エコとちぎ「2011」が11月5日から8日の4日間、県内21市町を会場に開催されました。この祭典は、国民の生涯を通じたスポーツ・レクリエーション活動の振興を図るために毎年開催されてきたもので、栃木県での開催は初めてです。祭典には、全国から約1万1000人の選手団が来県し、28種目のスポーツ・レクリエーション活動で地域や世代の枠を超えた交流の輪を広げることができました。また、多くの県民のみならず、典にかかわっていただき、開会式や特別行事などの主催事業に延べ約18万4000人が参加しました。

11月 中山、福田両氏を表彰 栃木県文化功労者

栃木県では、本県文化の振興に著しく貢献された人を、栃木県文化功労者として表彰しています。今年度の県文化功労者には本県初の女性能楽師（シテ方）の中山清野さんと栃木県伝統工芸士（烏山手漉き和紙）の福田弘平さんが選ばれました。1949年度の第1回表彰以来の受章者はこれで合計135人（学術36人、芸術70人、そのほか29人）になりました。



11月 文化活動の成果を発表 カルフルとちぎ2011

栃木県障害者文化祭が、11月18日と19日に、とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）で開催されました。参加した障害者は、演劇や合奏などの芸能発表、模擬店や制作品販売コーナー、作品展など、日頃の文化活動の成果を一生懸命発表し、来場者との交流を楽しんでいました。また会場内では、アイマスコーナーなど当日参加可能なイベントも多数用意され訪れた人たちが大いに楽しめる2日間となりました。



11月 県内企業が技術力アピール トヨタ自動車で展示商談会



栃木県と栃木県産業振興センターなどは、11月10日から11日にかけて県内企業の販路開拓を目的とする「とちぎ新技術・新工法展示商談会」を愛知県豊田市のトヨタ自動車(株)本社において開催しました。これは、県外自動車メーカーで開催する初めての展示商談会で、県内企業46社が1146人の来場者に対して、自社が持つ新技術や新工法などをアピールしました。来場者から出展企業への試作・見積依頼や商談希望などが多数出ており、県は今後も継続して商談成立に向けた支援をすることとしています。

11月 いい夫婦の日にシヨートケーキ 「いちご王国」からのご提案

11月22日は「いい夫婦の日」。またカレンダーで22日の上には15（イチゴ）がのっていることから毎月22日は「シヨートケーキの日」といわれています。パートナーへの日頃の感謝を込め、この日「いい夫婦の日」にシヨートケーキを贈ろう」キャンペーンが栃木県庁本館1階を会場に行われました。県産「とちおとめ」を使った自慢のシヨートケーキなどが販売され、会場は長蛇の列ができるなど多くの来場者で賑わいました。





11月 先進的イメージと自然調和 栃木県農業試験場本館が完成

農業関係試験場再編整備事業の一環として整備を進めていた栃木県農業試験場本館が11月24日、旧本館の北側隣接地に完成しました。この事業は、食の安全確保や環境保全などの課題に的確に対応しつつ、本県独自の新品種・新技術の開発を強化するため、研究内容の重点化と施設の整備を一体で進めてきたものです。新本館は一般の方も利用できる「図書室」も備え、より県民に開かれた施設としての役割を果たします。

11月 大規模災害に備えて訓練 栃木県警察と陸上自衛隊



栃木県警察は、県民の安全安心を確保するため、11月29日、陸上自衛隊と共同対処実動訓練を行いました。この訓練は、東日本大震災が、本県にも甚大な被害を及ぼしたことから、大規模災害発生時に迅速的確に対処するため実施しました。陸上自衛隊と共同で実動訓練を行い、災害情報との共有、被災者の救出救助、共同対処時の任務分担、連携要領の確認強化などを図り、発災時における救出救助の即応体制を整えました。

12月 国の「総合特区」に指定 再生可能エネルギービジネスモデル創造特区

栃木県は、農業用水路の豊かな水量と落差があることから小水力エネルギーが高い「ものづくり県」でもあります。「再生可能エネルギー」と「ものづくり技術」を有効活用した小水力発電ビジネスモデルを事業内容とする「栃木発再生可能エネルギービジネスモデル創造特区」が12月22日、国の「総合特区」の指定を受けました。総合特区に指定されたことで、農村地域における再生可能エネルギーの導入拡大が期待されます。

